

認知症予防に効果の脳リハビリ 韓国企業が明合乃里会を視察

認知症の進行防止・予防などにパソコンを使った「ブレインリハビリテーション」を実践する津市安濃町の社会福祉法人・明合乃里会に11日、韓国の介護施設コンサルタント企業「エンジェル・ホームケア」が視察に

訪れた。

このリハビリは同法人理事長の永田博一・医学博士が考案・開発したもので、運営する介護老人保健施設「あろう」などで5年前から取り入れて効果をあげている。一方、韓国は昨年から介護保険制度がスタートしたばかりで、介護技術など課題も多い。そこで日本の先進例に習おうと、韓国政府の援助を受けて今回の視察となった。

キム・チャンウー代表理事と、リー・イルヨン副社長は、永田理事長の指導を受けながら、簡単な計算問題や文字の並び替え、トランプ当てなどのリハビリメニューを体験した。

キム代表は「ゲーム感覚で面白く、楽しみながらできそうだ。韓国には文字の読めない人も多いが、これなら文字を覚えることにも活用でき、識字率の向上に

もつながる」と話し、早期導入への意向を示した。



脳リハを体験するキム代表